



福岡観世会 第二回

令和七年

能 弱よろ 法ぼ 師し 観世 清和

狂 言 梟ふくろ 山やま 伏ぶし 野村 万禄

能 殺せつ 生しやう 石せき 久保誠一郎
白頭



と き / 令和7年 1月25日(土) 午後1時始(12時開場)

と ころ / 大濠公園能楽堂

入 場 券 / 指定席…9,000円 (当日券…10,000円)

自由席…7,000円 (当日券…8,000円)

発 売 所 / 大濠公園能楽堂 ☎092-715-2155

組

弓八 仕 舞 木月 晶子
 田村フセ 今村 官子
 班女 菊本 澄代
 岩下 井内 政徳
 放僧 鷹尾 維教
 卷下 山口剛一郎
 小倉要二郎
 鷹尾 章弘
 今村 嘉伸
 久保誠一郎

弱法師

観世 清和
 福王茂十郎
 野村 万禄
 坂口 貴信
 坂口 信男
 井内 政徳
 今村 哲朗
 今村 嘉太郎
 今村 一夫
 森本 哲郎
 多久島利之
 関根 知孝
 観世 三郎太
 白坂 信行
 正佳 笛
 森田 光次

泉山伏

杉山 俊広
 吉良 博靖

白楽 天 坂口 信男
 采女 キリ 関根 知孝
 善界 観世 三郎太
 久田 勤吉郎
 今村 嘉伸
 多久島利之
 今村 嘉太郎

殺生石

久保誠一郎
 白頭
 福王 知登
 吉住 講
 大鼓 白坂 保行
 小鼓 飯富 章宏
 太鼓 田中 達
 相原 一彦

後見 山口剛一郎
 坂口 貴信

地謡

小倉要二郎
 井内 政徳
 久田 勤吉郎
 今村 哲朗
 今村 一夫
 森本 哲郎
 鷹尾 維教
 鷹尾 章弘

附祝言

終演予定 十六時四十分

弱法師

父と子の再会に、梅の白さと清らかな香りが、更なる喜びを添える名曲です。河内は高安に住む通俊は、他人の告げ口により、我が子俊徳丸を追放した事を後悔し、再び出会うことを祈願するため、ある年の二月、天王寺にて七日間の修行をいたします。その中日、弱法師と呼ばれている盲目の青年がやって来て、天王寺縁起を語ります。夕暮れ時、入り日の方角である西方浄土を拝みつつ清澄な様子の弱法師ながら、やつれ果て盲目となった我が身を思い、隠しきれない狂おしい心情を見せるのでした。シテが持つ杖は普通の杖より握りこぶし一つ分長く、天王寺の石の鳥居(シテ柱をそれに見立てます)を探り当てる態も儂げな風情。黒頭を付けることにより沈鬱な哀れさが際立ちます。盲目となる前に見ていた景色を心眼で追うイロエでは、悟道に至った弱法師に見えている早春の景色が、お客様にもほのぼのとした情感として伝わることでございましょう。

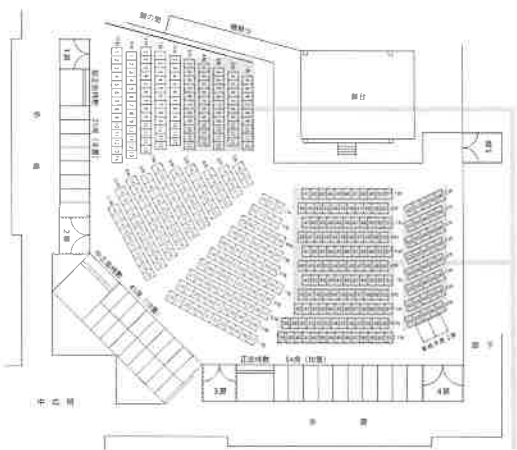
泉山伏

ある兄弟の弟が登場し、山から帰ってきた兄の様子がおかしいので、山伏の所へ行き、治療をしてくれるよう頼みます。初めはもつたいをつける山伏でしたが、兄弟の家に着き兄を治そうと祈りますが、兄は奇声を発します。弟に山での出来事を尋ねると、兄は泉の巢にいたずらをしたと答えます。そこで山伏は鳥の印を結び、祈り治そうとしますが...。泉の鳴き声が印象的で、忘れられない狂言です。

殺生石 白頭

那須高原に現存する殺生石。今でこそ硫黄の煙は出していませんが、どことなく不気味な感じが辺りに漂っています。那須原に通るかかった玄翁道人は、空飛ぶ鳥が息絶えて落ちる姿を目にします。そこに里女が声を掛け、鳥羽院ご寵愛であった玉藻の前の正体は、実は帝を害するために近づいた化生のものだと打ち明けて、姿を消します。玄翁が供養をしていると、かつて成敗されたものの執心が殺生石となった玉藻の前が正体である野干として現れます。

白頭の小書により、後シテは白を基調とした装束となり、緩急の冴えた演出となります。



指定席 (その他は棧敷席を含めて自由席となります。)